Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第42号
2025年（令和七年） 2月7日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（1月30日～2月5日）の国際石油市場は、3日にOPECプラスの閣僚監視委員会（JMMC）が開催され、従来の減産体制の維持は合意されたものの、トランプ政権の対カナダ・メキシコ、対中国の関税政策を巡る混乱と対イランへの「最大限の圧力」姿勢で、連日、不安定な動きを繰り返し、先週に続き、値下がりの傾向で推移した。

NYのWTI原油先物市場は、30日、小反発の72.73ドルで始まり、反落、反発を繰り返したが、4日、5日は続落し、5日は昨年12月下旬の水準である71.03ドルまで低下して終わった。

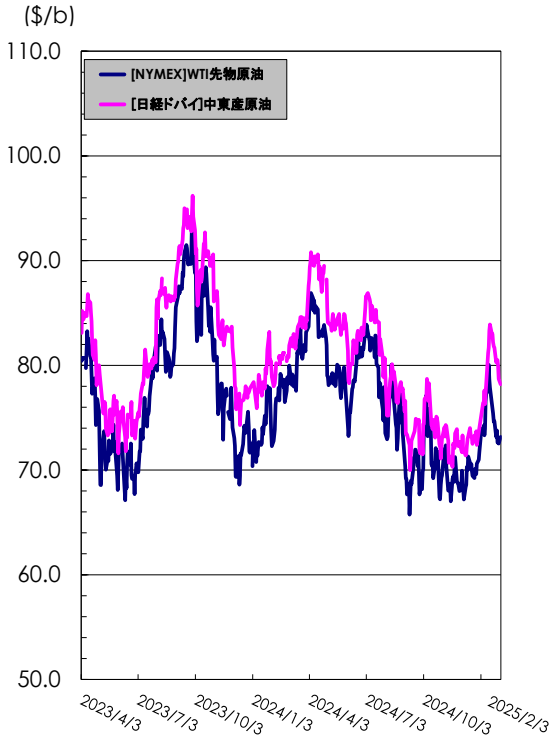
また、中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）も、前週（1月23日～29日）は80.30～81.80ドルの範囲で推移したが、当週は、1月30日79.90ドル、31日78.70ドル、2月3日78.20ドル、4日77.10ドル、5日78.00ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（1月23日～29日）155.13～156.50円の範囲で推移したが、当週は、1月30日154.76円、31日154.43円、2月3日155.71円、4日155.35円、5日154.07円だった。

財務省が1月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格75,369円で前旬比2,391円高、ドル建て76.63ドルで前旬比0.51ドル高、為替レートは1ドル/156.36円と円安が進んだ。

そのような中で、2月3日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.5円安、軽油も0.4円安、灯油は同3円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は184.6円となった。2月6日～12日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、17.4円（補助金がない場合の次週予想価格202.4円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比3.1円の減額となった。

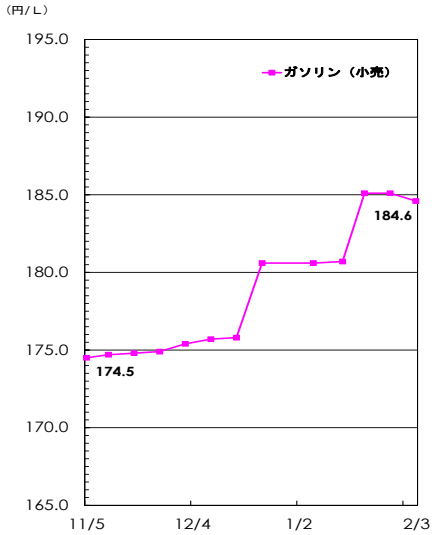
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	1/26 ～ 2/1	2,668	▼ -25	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	77.1	▼ -0.7	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	2/1	10,261	▼ -325	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	2/3	78.20	▼ -2.10	▲ 0.2
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	2/3	73.16	▼ -0.01	▲ 0.4
	原油CIF単価	（$/bbl）	1月上旬	76.63	▲ 0.51	▼ -9.15
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	75,369	▲ 2,391	▼ -2,341
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	156.36	▼ -3.95	▼ -12.33
	外国為替TTSレート	（¥/$）	2/3	156.71	▼ -0.11	▼ -6.95



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/1	1,803	▼ -12	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	1/28 ～ 2/3	87.0	➡ 0.0	▲ 6.0
		（TOCOM/中部）	2/3	86.0	➡ 0.0	▲ 7.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/3	184.6	▼ -0.5	▲ 10.0

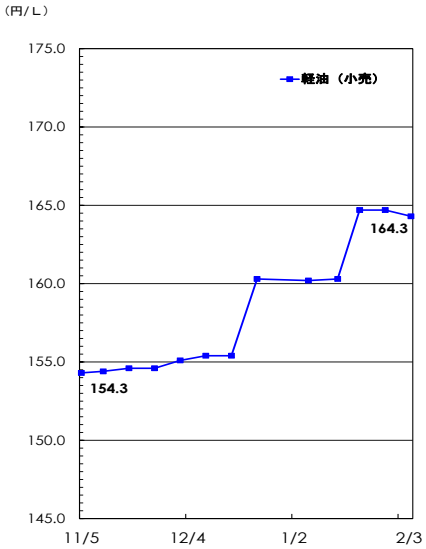
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

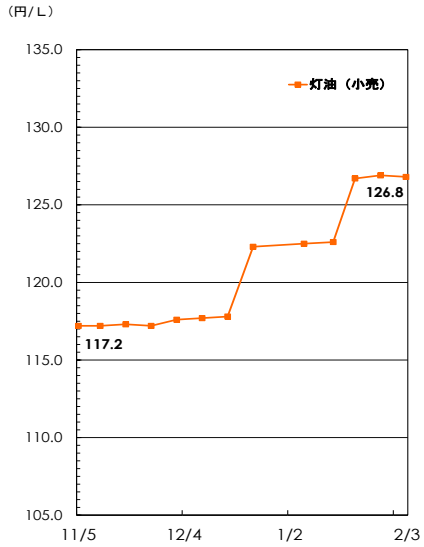
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/1	1,413	▼ -179	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	1/28 ～ 2/3	88.0	▼ -0.4	▲ 6.4
		（TOCOM/中部）	2/3	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/3	164.3	▼ -0.4	▲ 10.0

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/1	1,885	▼ -140	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	1/28 ～ 2/3	88.0	➡ 0.0	▲ 5.5
		（TOCOM/中部）	2/3	89.0	➡ 0.0	▲ 9.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/3	126.8	▼ -0.1	▲ 10.1



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（1月23日～29日）のNYMEX・WTI先物市場は72.62～74.66ドルの範囲で推移した。

当週、1月30日は、トランプ政権の関税政策の行方、また、2月3日に開催されるOPECプラスの閣僚監視委員会（JMMC）での4月からの減産緩和方針の取り扱いが不透明であることから、様子見ムードが強く、小さく反発した。3月物終値は前日比0.11ドル高の72.73ドル。

週末31日は、引き続き、米国による対カナダ・対メキシコへの関税賦課の開始時期・品目に関する不透明感、OPECプラス閣僚会合の様子見から、逆に、反落した。3物終値は同0.20ドル安の72.53ドル。

週明け3日は、トランプ大統領は、1日、カナダ・メキシコ産品への25%の関税賦課の大統領令に署名したことから、両国からの原油・石油製品輸入が滞るとして、反発した。また、この日WEB開催されたOPECプラスの閣僚監視委員会は、従来の減産方針の維持を確認、トランプ大統領の増産要請を無視した形となった。3月物終値は同0.63ドル高の73.16ドル。

4日は、米国の対カナダ・メキシコへの25%関税賦課は1か月先送りとなったが、米国は対中国の追加関税10%を発表、これに対し中国も報復関税で対抗、中国経済の先行き懸念が高まり、売りが先行した。その後、トランプ大統領は、イランの石油輸出を止めるとして、制裁強化を表明し、わずかに買い戻されたものの、反落した。3月物終値は同0.46ドル安の72.70ドル。

5日は、前日に続き、米中貿易摩擦値の懸念に加え、この日発表の米国石油在庫週報で、原油・ガソリンとも市場予想を上回る積み増しで、続落し、昨年12月の中旬以来、1か月ぶりの安値を記録した。ただ、トランプ政権のイランへの「最大限の圧力」姿勢への不安が、上値を抑えた。3月物終値は同1.67ドル安の71.03ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）が2月5日に発表した1月31日時点の在庫週報によると、原油は前週比870万バレル増（市場予想：330万バレル増）、ガソリンは同220万バレル増（市場予想：30万バレル減）とともに、予想を上回る積み増しで、需給緩和感が広がった。

EIAによると、2月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.1セント安の1ガロン3.082ドル（128.5円/㍑）と2週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比0.1セント高の1ガロン3.660ドル（151.2円/㍑）と2週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月31日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比7基増の479基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年1月26日～2月1日に休止したトッパー能力は39.5万バレル/日で、前週に対して8.9万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は266.8万klと、前週に比べ2.5万kl減少。前年に対しては21.6万klの減少。トッパー稼働率は77.1%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては3.1ポイントの減少となった。

4　国内/製品在庫量

2月1日時点の在庫は、ジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは180.3万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては1.5万kl多い。

灯油は188.5万kl、前週差14.0万kl減。前年に対しては6.6万kl少ない。

軽油は141.3万kl、前週差17.9万kl減。前年に対しては14.8万kl少ない。

A重油は75.6万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては6.9万kl多い。

C重油は168.1万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては26.0万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (2/1)	前週 (1/25)	前週比
ガソリン	1,803	1,815	▼ -12 (-1%)
ジェット燃料	704	672	▲ 32 (5%)
灯油	1,885	2,025	▼ -140 (-7%)
軽油	1,413	1,592	▼ -179 (-11%)
A重油	756	759	▼ -3 (-0%)
C重油	1,681	1,708	▼ -27 (-2%)
合　計	8,242	8,571	▼ -329 (-3.8%)

5　国内/元売会社製品卸価格

1月28日～2月3日のドル建て中東原油価格は前週比値下がり、為替レートも円高が進み、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。ただ、補助金は3.1円減額されるため、2/6からの実質卸価格は値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

2月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の184.6円、軽油も同0.4円安の164.3円、灯油は18㍑ベースで同3円安の2,282円（1㍑ベースでは0.1円安の126.8円）。ガソリンは12週ぶりの値下がり、軽油は4週ぶりの値下がり、灯油は9週ぶりの値下がりの値上がりとなった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが6府県、横ばいが4県・値下がりは37都道府県だった。全国最安値は愛知県の176.5円、その次は岩手県の176.8円であった。他方、最高値は高知県の193.8円。最も値上がりしたのは佐賀県（同1.7円高）、最も値下がりしたのは北海道（同1.9円安）だった。

次回調査時（2/10）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(2/3)	前週　(1/27)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	184.6	185.1	▼ -0.5	23/9/4	186.5
	灯油	126.8	126.9	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	164.3	164.7	▼ -0.4	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第43号）の公表は、2/14（金）14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。